

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月10日

【四半期会計期間】 第39期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社フォーカスシステムズ

【英訳名】 Focus Systems Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森 啓 一

【本店の所在の場所】 東京都品川区東五反田二丁目7番8号

【電話番号】 03(5421)7777 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 畑 山 芳 文

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区東五反田二丁目7番8号

【電話番号】 03(5421)7777 (代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役 畑 山 芳 文

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第2四半期 累計期間	第39期 第2四半期 累計期間	第38期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	6,442,980	7,286,457	14,146,242
経常利益 (千円)	240,499	270,541	849,751
四半期(当期)純利益 (千円)	115,459	165,028	455,647
持分法を適用した場合の 投資損失(△) (千円)	△996	△1,396	△552
資本金 (千円)	2,905,422	2,905,422	2,905,422
発行済株式総数 (千株)	8,146	8,146	8,146
純資産額 (千円)	4,779,151	6,009,495	5,029,600
総資産額 (千円)	10,977,520	13,566,857	11,837,231
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	16.68	23.84	65.81
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	20.00
自己資本比率 (%)	43.5	44.3	42.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	300,713	213,226	667,012
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△48,877	△145,357	△119,320
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△323,577	281,017	△32,694
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	2,323,759	3,259,384	2,910,498

回次	第38期 第2四半期 会計期間	第39期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	16.68	14.96

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第38期の1株当たり配当額の内訳は、普通配当10円00銭及び特別配当10円00銭であります。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当第2四半期累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期におけるわが国経済は、4月の消費税引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、景況悪化を示す経済指標等が相次いで示されるなか、これが一時的な影響に止まるのか、持続的な景気回復を目指す政府政策が今後の景気を力強く牽引していくのかについて、不透明な状況のもと推移しました。

情報サービス業界におきましては、公共・民間の両セグメントとも、情報システムに関する投資意欲は前年度からの回復傾向が継続しており、全体として活況が続いております。

このような状況の中、当社は、「公共関連事業」・「民間関連事業」・「セキュリティ機器関連事業」の3報告セグメントそれぞれで異なる事業環境・得意分野を念頭に、組織間の連携強化、成長分野・商材・部門への資源の優先投下、環境変化への対応、そして人材育成と営業活動の強化を経営戦略に掲げ、事業活動を推進しております。全てのセグメントにおいて、計画通り順調に推移しておりますが、特に「公共関連事業」においては、前年第4四半期より回復傾向が顕著となり、売上・利益とも伸びております。

これらの結果、当第2四半期累計期間における業績は、売上高7,286百万円と前年同四半期と比べ843百万円(13.09%)の増収となりました。また利益面では、営業利益295百万円(前年同四半期は営業利益248百万円)、経常利益270百万円(前年同四半期は経常利益240百万円)、四半期純利益165百万円(前年同四半期は四半期純利益115百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(公共関連事業)

最終ユーザーが官公庁及び地方自治体向けであり、財務システム、貿易システム、航空管制システム、医療福祉システム、社会保障システム等、社会インフラ基盤のシステム実現に向けた提案作業、基盤構築、基本検討、設計、開発、試験からシステム稼働後の運用管理、保守に至るまでトータルソリューションの技術支援を行っております。

当第2四半期累計期間は、売上高2,518百万円と前年同四半期と比べ513百万円(25.6%)の増収となりました。またセグメント利益は、359百万円と前年同四半期と比べ135百万円(60.2%)の増益となりました。

(民間関連事業)

最終ユーザーが主に一般民間企業向けであり、個別ニーズに合わせた、各種システムの設計、製造、構築及び、ハードウェアのキットニング、ネットワーク設定、OS導入・設定、各種ミドルウェア導入・設定、システムテストといった、一連もしくは個別の提供及び、稼働中システムの運用管理、保守、技術支援を行っております。

当第2四半期累計期間は、売上高4,248百万円と前年同四半期と比べ406百万円(10.6%)の増収となりました。またセグメント利益は、455百万円と前年同四半期と比べ85百万円(23.0%)の増益となりました。

(セキュリティ機器関連事業)

健全なIT社会構築に貢献する技術の提供を目標に、実効性のあるセキュリティソリューションの提供等を行う当事業におきましては、官公庁や大手民間企業等にも専門担当が増えてきており、特にデジタル・フォレンジック技術の社会的ニーズが増えております。

当第2四半期累計期間は、売上高518百万円と前年同四半期と比べ76百万円(12.8%)の減収となりました。またセグメント利益は、77百万円と前年同四半期と比べ95百万円(55.2%)の減益となっておりますが、これは前年上半期は、補正予算等の特需により大幅な売上・利益が計上されたことによるものです。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期における総資産は13,566百万円となり、前事業年度末と比べ1,729百万円増加しました。

前事業年度末と比べ増減した主な内容は次のとおりです。

売掛金は299百万円減少し2,622百万円、仕掛金は75百万円増加し104百万円となりました。当社は工事進行基準を適用しておりますが、年度末に完了するプロジェクトが比較的多いことから、四半期末の数値は前事業年度末と比べ売掛金が小さく、仕掛品が大きくなる傾向にあります。

投資有価証券は1,481百万円増加し2,663百万円となりました。これは保有している有価証券の時価が年度末と比べ値上がりしたことによるものです。

ソフトウェア仮勘定は55百万円増加し83百万円となりました。これは業務効率化のための社内システム開発にかかる費用であります。

このほか、現金及び預金は374百万円増加し3,546百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末と比べ348百万円増加し、3,259百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローでは、213百万円の収入(前年同四半期は300百万円の収入)がありました。主な内訳は、法人税等の支払額364百万円があった一方で、売上債権の減少額299百万円、税引前四半期純利益269百万円等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、145百万円の支出(前年同四半期は48百万円の支出)がありました。主な内訳は、貸付金の回収による収入6百万円があった一方で、無形固定資産の取得による支出73百万円、保険積立金の積立による支出32百万円、定期預金の増加額25百万円、有形固定資産の取得による支出17百万円等によるものであります。

財務活動におけるキャッシュ・フローでは、281百万円の収入(前年同四半期は323百万円の支出)がありました。主な内訳は、長期借入金の返済による支出735百万円があった一方で、社債の発行による収入588百万円、長期借入れによる収入500百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

株式会社の支配に関する基本方針

当社では、以下の経営方針を理解し指示する者が、「財務及び事業の方針の決定を支配する者」であることが望ましいと考えております。

（経営方針）

当社は、社員の一体感を高め、社員全体が一丸となってパワーを発揮できる組織とし、未来のために貢献できる会社を目指したいとの思いの下、「社員すべてが心と力を合わせ、企業の発展と成長を通じて、未来のより良い環境作りに貢献する」を経営理念とし、以下の3つの責任を果たしていきます。

1. 個人責任

人間性と技術力を磨き、最高のサービスをお客様に提供します。

2. 企業責任

社員相互が信頼し合い、安心かつ働きがいのある会社を作ります。

3. 社会責任

お客様、投資家、株主から信頼され、社会から必要とされる会社を作ります。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	36,000,000
計	36,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,146,471	8,146,471	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株 株主としての権利内容に制限の ない標準となる株式
計	8,146,471	8,146,471	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年9月30日	—	8,146	—	2,905,422	—	749,999

(6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
東 光博	千葉県浦安市	541,200	6.64
株式会社U B I C	東京都港区港南2丁目12-23	450,000	5.52
フォーカスシステムズ 社員持株会	東京都品川区東五反田2丁目7-8	337,200	4.13
柿木 龍彦	神奈川県横浜市港南区	301,000	3.69
畑山 芳文	千葉県浦安市	292,000	3.58
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13-1	250,000	3.06
石橋 雅敏	神奈川県横浜市中区	174,100	2.13
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	170,000	2.08
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2-1	135,000	1.65
株式会社S B I証券	東京都港区六本木1丁目6-1	123,800	1.51
計	—	2,774,300	34.05

(注) 上記のほか当社所有の自己株式1,223,090株(15.01%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,223,000	—	単元株式数 100株 株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,922,600	69,226	同上
単元未満株式	普通株式 871	—	同上
発行済株式総数	8,146,471	—	—
総株主の議決権	—	69,226	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には証券保管振替機構名義の株式が、3,100株(議決権31個)含まれております。

2 「単元未満株式」の欄の普通株式は当社所有の自己株式90株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社フォーカスシ テムズ	東京都品川区東五反田二 丁目7番8号	1,223,000	—	1,223,000	15.01
計	—	1,223,000	—	1,223,000	15.01

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期財務諸表について、あらた監査法人により四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,171,791	3,546,450
売掛金	2,922,396	2,622,918
商品及び製品	17,586	18,102
仕掛品	29,117	104,829
繰延税金資産	178,730	178,730
その他	109,010	116,031
貸倒引当金	△200	△200
流動資産合計	6,428,432	6,586,861
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,229,039	1,242,743
減価償却累計額	△859,162	△870,832
建物及び構築物（純額）	369,876	371,911
土地	3,287,792	3,287,792
その他	346,540	360,883
減価償却累計額	△262,975	△272,202
その他（純額）	83,565	88,681
有形固定資産合計	3,741,234	3,748,385
無形固定資産		
ソフトウェア	22,583	20,222
ソフトウェア仮勘定	28,084	83,552
その他	10,248	9,391
無形固定資産合計	60,915	113,165
投資その他の資産		
投資有価証券	1,181,466	2,663,115
長期貸付金	55,365	49,171
その他	422,666	453,507
貸倒引当金	△52,850	△47,350
投資その他の資産合計	1,606,649	3,118,444
固定資産合計	5,408,799	6,979,995
資産合計	11,837,231	13,566,857

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	589,899	584,486
1年内償還予定の社債	84,000	204,000
短期借入金	554,000	660,597
1年内返済予定の長期借入金	1,360,136	1,277,658
未払法人税等	381,355	127,327
賞与引当金	346,549	487,107
役員賞与引当金	60,000	30,000
訴訟損失引当金	56,400	56,400
その他	669,827	605,464
流動負債合計	4,102,167	4,033,043
固定負債		
社債	324,000	762,000
長期借入金	1,882,486	1,729,702
繰延税金負債	349,811	878,081
役員退職慰労引当金	149,166	154,535
固定負債合計	2,705,463	3,524,318
負債合計	6,807,631	7,557,362
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,905,422	2,905,422
資本剰余金	1,468,471	1,468,471
利益剰余金	719,296	745,856
自己株式	△706,354	△706,397
株主資本合計	4,386,835	4,413,352
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	642,764	1,596,142
評価・換算差額等合計	642,764	1,596,142
純資産合計	5,029,600	6,009,495
負債純資産合計	11,837,231	13,566,857

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	6,442,980	7,286,457
売上原価	5,674,340	6,392,680
売上総利益	768,639	893,776
販売費及び一般管理費	※1 519,775	※1 598,446
営業利益	248,863	295,330
営業外収益		
受取利息及び配当金	18,366	3,085
受取家賃	11,452	11,587
貸倒引当金戻入額	-	5,500
その他	6,360	6,083
営業外収益合計	36,179	26,256
営業外費用		
支払利息	32,603	32,906
貸与資産減価償却費	3,426	3,227
社債発行費	2,291	11,246
貸倒引当金繰入額	1,900	-
その他	4,322	3,665
営業外費用合計	44,543	51,045
経常利益	240,499	270,541
特別損失		
ゴルフ会員権評価損	-	1,050
特別損失合計	-	1,050
税引前四半期純利益	240,499	269,491
法人税等	125,040	104,463
四半期純利益	115,459	165,028

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	240,499	269,491
減価償却費	40,358	40,594
のれん償却額	-	857
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,900	△5,500
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	4,869	5,369
賞与引当金の増減額 (△は減少)	162,234	140,558
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△33,500	△30,000
受取利息及び受取配当金	△18,366	△3,085
支払利息	32,479	30,376
社債利息	124	2,530
社債発行費	2,291	11,246
ゴルフ会員権評価損	-	1,050
売上債権の増減額 (△は増加)	33,728	299,478
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△157,624	△76,228
仕入債務の増減額 (△は減少)	61,098	△5,412
未払金の増減額 (△は減少)	△146,504	△104,166
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△61,347	31,410
その他	159,097	△948
小計	321,339	607,621
利息及び配当金の受取額	18,297	2,937
利息の支払額	△35,956	△32,886
法人税等の支払額	△2,967	△364,446
営業活動によるキャッシュ・フロー	300,713	213,226
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	25,818	△25,772
ゴルフ会員権の取得による支出	-	△1,500
保険積立金の積立による支出	△32,971	△32,971
貸付けによる支出	△10,000	-
貸付金の回収による収入	4,766	6,194
有形固定資産の取得による支出	△18,399	△17,862
無形固定資産の取得による支出	△2,316	△73,913
差入保証金の差入による支出	△14,166	△3,846
差入保証金の回収による収入	3,951	4,316
事業譲受による支出	△5,561	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△48,877	△145,357
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△143,900	106,597
長期借入れによる収入	630,000	500,000
社債の発行による収入	117,708	588,753
長期借入金の返済による支出	△804,811	△735,261
社債の償還による支出	△20,000	△42,000
自己株式の取得による支出	-	△43
配当金の支払額	△102,575	△137,027
財務活動によるキャッシュ・フロー	△323,577	281,017
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△71,741	348,886
現金及び現金同等物の期首残高	2,395,500	2,910,498
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 2,323,759	※1 3,259,384

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	
税金費用の計算	当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じる方法を採用しております。 ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
役員報酬	69,714千円	77,914千円
給料手当	117,007千円	155,607千円
賞与引当金繰入額	27,284千円	42,163千円
役員賞与引当金繰入額	12,500千円	30,000千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金	2,561,027千円	3,546,450千円
定期預金	△206,000千円	△206,000千円
定期積金	△29,500千円	△77,500千円
別段預金	△1,768千円	△3,566千円
現金及び現金同等物	2,323,759千円	3,259,384千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	103,851	15.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	138,468	20.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	公共関連事業	民間関連事業	セキュリティ 機器関連事業			
売上高						
外部顧客への売上高	2,005,090	3,842,561	595,328	6,442,980	—	6,442,980
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,005,090	3,842,561	595,328	6,442,980	—	6,442,980
セグメント利益	224,668	370,025	173,945	768,639	△519,775	248,863

(注) 1 セグメント利益の調整額△519,775千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	公共関連事業	民間関連事業	セキュリティ 機器関連事業			
売上高						
外部顧客への売上高	2,518,712	4,248,842	518,902	7,286,457	—	7,286,457
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,518,712	4,248,842	518,902	7,286,457	—	7,286,457
セグメント利益	359,857	455,069	77,993	892,919	△597,589	295,330

(注) 1 セグメント利益の調整額△597,589千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社に関する事項

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
関連会社に対する投資の金額	10,000千円	10,000千円
持分法を適用した場合の投資の金額	26,342千円	24,945千円

	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
持分法を適用した場合の投資損失の金額	996千円	1,396千円

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益	16.68円	23.84円
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	115,459	165,028
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	115,459	165,028
普通株式の期中平均株式数(千株)	6,923	6,923

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月10日

株式会社フォーカスシステムズ
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士 加藤 真美
指定社員 業務執行社員	公認会計士 加藤 正英

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーカスシステムズの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第39期事業年度の第2四半期会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーカスシステムズの平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。